

令和4年度（補正予算）

関係人口創出・拡大のための対流促進事業 （中間支援組織の提案型モデル事業）

事業の実施結果 （概要）

団体名	株式会社イトイズ
事業名	食物アレルギーを持つ家族の第二の故郷づくり

- 食物アレルギーを持つ人たちが自らの食に対して生産の現場へ行き、生産の様子を見て学び、生産している人たちと交流することで安心してその後も生産者から農作物を購入することができる取り組みを推進することで得られる「食の安心」にフォーカスした「食物アレルギーっ子第二の故郷」作りを行った。
- 食物アレルギーが原因による外食や旅行の不安感を軽減してもらえるような手配・準備をし、心から楽しんでもらうことにより、外食や旅行に対するハードルを下げた。

主な活動内容

1. アレルギーフレンドリーツアーの実施

7月：知多の恵みグループ農園ベジネ（愛知県）
 8月：大塚ファーム（北海道）
 9月：宜野座の純黒糖（沖縄）
 10月：株式会社オーガニックnico（京都）
 11月：いかす平塚農場（神奈川）

以上の場所へ100人以上のアレルギーをもつ親子を案内して、生産者のアレルギーへの配慮を説明してもらい、関係性を深めた。

2. アレルギーフレンドリーオンラインツアーの実施

現地ツアーに参加できない遠隔地の方々へオンラインツアーを案内した。

7月：知多の恵みグループ農園ベジネ（愛知県）
 8月：大塚ファーム（北海道）
 9月：宜野座の純黒糖（沖縄）
 10月：株式会社オーガニックnico（京都）
 11月：いかす平塚農場（神奈川）



アレルギーフレンドリーツアーサイトページ



アレルギーフレンドリーツアー（宜野座）



北海道テレビ「イチオシ!!」で特集されました

主な成果

1. 参加者や地域の声

- **参加者の声**：生産におけるアレルギーへの配慮や工夫を感じられて、生産者で選ばなければいけないと感じた。また普段はアレルギーがでる作物も食べてみたら、出なかったこともあり奇跡だと思った。
- **地域の生産者の声**：アレルギーをもつ人たちの多さと生活の難しさを改めて感じたが自分たちの野菜を食べてもらうことで安心してもらえてうれしかった。

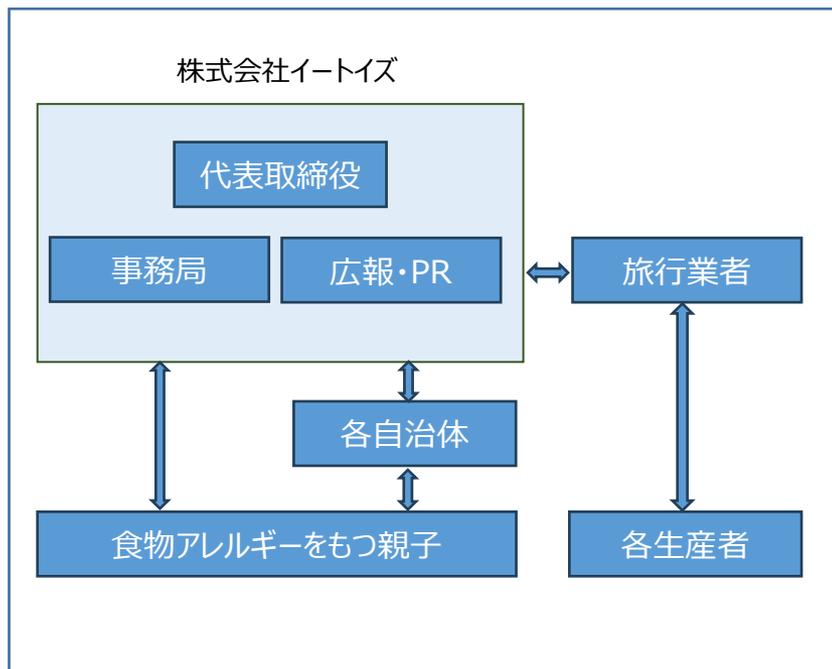
2. 地域への影響や関係人口側の変容・文化的充足感

- ツアー後に直接野菜を購入する関係性をもつ家族も多く、第二の故郷が形成されつつある。

3. 事業を通じて得られた気づきや知見

- 食物アレルギーに理解のある生産者の多くは、近親者にアレルギーをもつ方々多いことがわかり、やはり実感をして初めて変える行動につながっているのではないかと思った。

事業実施体制・関係機関



団体名	役割
株式会社マイファーム	ツアーの作成・手配
知多の恵み	参加者の受け入れ・セミナー講師
大塚ファーム	参加者の受け入れ・セミナー講師
株式会社オーガニックnico	参加者の受け入れ・セミナー講師
いかす平塚農場	参加者の受け入れ・セミナー講師
沖縄の農家（渡久地様）	参加者の受け入れ・セミナー講師
知多市	参加者の募集補助
新篠津村	参加者の募集補助
京都市	参加者の募集補助
平塚市	参加者の募集補助
宜野座市	参加者の募集補助

食や環境に関する取組状況

- 本事業期間が終わった後も自主事業として継続するアレルギーフレンドリーツアーを企画しており、参加者を各地で集めるために定期的にアレルギーを持つ親子のおしゃべり会をオンラインで行っている。
- アレルギーフレンドリーツアーの参加者から、生産者に加えて料理をするシェフが参加するイベントがあるとうれしい、という声があったので現在2月23日に予定をしている。
- 本事業の実績により、一般社団法人日本有機農産物協会より講演依頼を受けて2月20日にセミナーをする予定をしており、今回の事業の発表をする予定である。



次年度以降の事業展開

“アレルギーフレンドリー” ワードの普及

- 講演会・セミナー登壇

食品業界、教員関連に向けた食物アレルギーの認知度拡大を行うために定期的に外部のセミナー講師を行う予定をしている。

- 「アレルギーフレンドリービュッフェ」イベントの開催

参加者から声が多かった食における“プロの味に触れる”ことの楽しさを体感してもらい、外食のきっかけにする勇気をもつことを喚起したいと考えている。

- 体験イベント（マルシェ）の開催

“食育体験”を通して食に興味を持ってもらい、関係性を深めてもらえるよう今回講師をしてくれた生産者が参加してくれるようなマルシェを行い、別事業として行う食イベントをミックスさせて、生産者・料理人・食物アレルギーを持つ親子が交流するイベントを予定している。

時期	内容
2024年2月	セミナー講師（日本有機農産物協会）
2024年2月	アレルギーフレンドリービュッフェ実施
2024年5月	体験イベントの実施
2024年8月	アレルギーフレンドリーツアー実施
2024年11月	アレルギーフレンドリーツアー実施
2024年12月	アレルギーフレンドリービュッフェ実施

自立・自走化にあたっての課題

時期	収入	支出	内容
2024年	5,000	4,000	アレルギーフレンドリービュッフェ/マルシェ
2025年	8,000	7,000	アレルギーフレンドリーツアーの本格事業化
2026年	20,000	16,000	アレルギーフレンドリー食品の開発

3か年の事業収支計画（単位：千円）

・2026年の食品開発に向けての開発資金をどう調達するかを検討しているが、向こう2年間でそれをまかなう利益を得られないため、融資/投資を検討している。

・食物アレルギーが広く知られてきており、飲食店・生産者・食品加工会社とも力を入れているため、この追い風に如何に乗って価値を提供していくか試行錯誤をしている。